

# 大社基地跡の企業取得地

# 宅地開発は3分の2

## 残り活用地元意見参考に

### 来月から工事



アリオンが宅地開発を計画する大社基地滑走路跡―出雲市斐川町出西

太平洋戦争末期に建設された出雲市斐川町出西の旧海軍大社基地の滑走路跡について、土地を取得した映像・音楽ソフトレンタル業などのアリオン(出雲市今市町)が約3分の2を宅地として分譲し、残る土地は地元意見を参考に活用策を検討する方針であることが30日分かった。分譲は年内開始を予定し、2月中旬に造成工事などを始める。残る土地の活用方法は現時点で未定としている。

(月森かな子、佐貴公哉)

宅地開発する土地は約1万8千平方メートルで、64戸分を予定。2月中旬から、滑走路建設時に造られたコンクリートの撤去に着手し、造成や敷地内の道路、上下水道などの工事を順次行う。10月ごろの完了を目指し、その後、分譲販売する。

滑走路跡地は約9万平方メートルがコンクリート舗装され、管理する国が民間に売却してきた。アリオンは昨年2月、約2万7200平方メートルを購入した。

開発区域は取得地の中間部分に当たり、西端は出雲市から滑走路跡にある市有地との交換提案があり、除外した。東端の約5千平方メートルも今回の開発計画には含めないが、工事に合わせてコンクリートは撤去する。

出雲市斐川町内で30日に住民を対象にした開発工事説明会があり、概要が示された。アリオンの池田斉社長は「安全で自然をできるだけ残し、地域の人に喜ん



でもらえるような分譲地にしたい」と説明。東端の土地については「活用策などがあれば聞かせてほしい」と述べた。自治会の代表ら出席者から開発に対する反

対の意見は出なかった。大社基地滑走路跡を巡っては、島根史学会など3団体が保存や国史跡指定に向け、島根県教育委員会や出雲市に本格的な調査を求めている。戦後史会議・松江の若槻真治世話人代表は「開発するしないを問わず、県や市には自身の考えを明らかにする責任があり、事をうやむやにせず、遺跡としての価値判断を早く表明すべきだ」と指摘した。